

1 はじめに

私は今回の介護実習で、70歳代の、認知症により過去の出来事を思い出すと、寂しい状態が続いてしまう女性の利用者を受け持った。そこで、利用者のこれまでの生活から余暇活動に取り入れられそうなものをピックアップし、その余暇活動を実施していくことで、過去ばかりにとらわれず、今現在を楽しく過ごすことができるようになるのではないかと考えた。また楽しいことをしながら過去を思い出すことで、思い出を悲しいと思うばかりではなく、自分の過去を大切にしながらゆったりと毎日を過ごせることにつながるのではないかと考え、計画を実施する中での利用者の表情や言動を評価することにより、良かった点と改善点を明らかにし、今後の課題を明確にした過程を報告する。

2 事例概要（受け持ち期間：平成25年6月4日～6月21日
平成25年10月1日～10月22日 計27日間）

（1）生活歴等

Aさん 70歳代女性。夫が他界してから、特別養護老人ホームに入所する。息子が一人いるが、毎週日曜日に面会に来所し、二人で外出する。60代で脳梗塞を起こしたため、左片麻痺となり、現在はほとんど車いすを使用しながらの生活である。また、高血圧のため、毎日降圧剤を服用している。

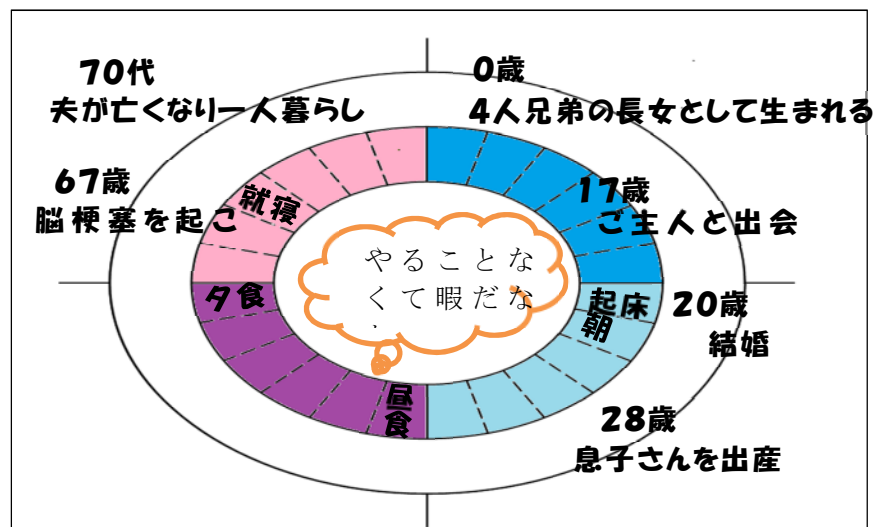


図1：ライフサークルチャート

（2）ADLの状況

認識面としては、人と接することが好きなため、自ら声をかけてくれることが多い。また、会話の中で過去の出来事を話す際には寂しそうな表情が目立ち、不安になっていることがある。

行動面では、周囲のことをよく気にかけているようで、自分でできる範囲のことは自分でやるようにしている。何もすることがないと、退屈になってしまい、フロア内の机に伏せている状態がよく見られた。

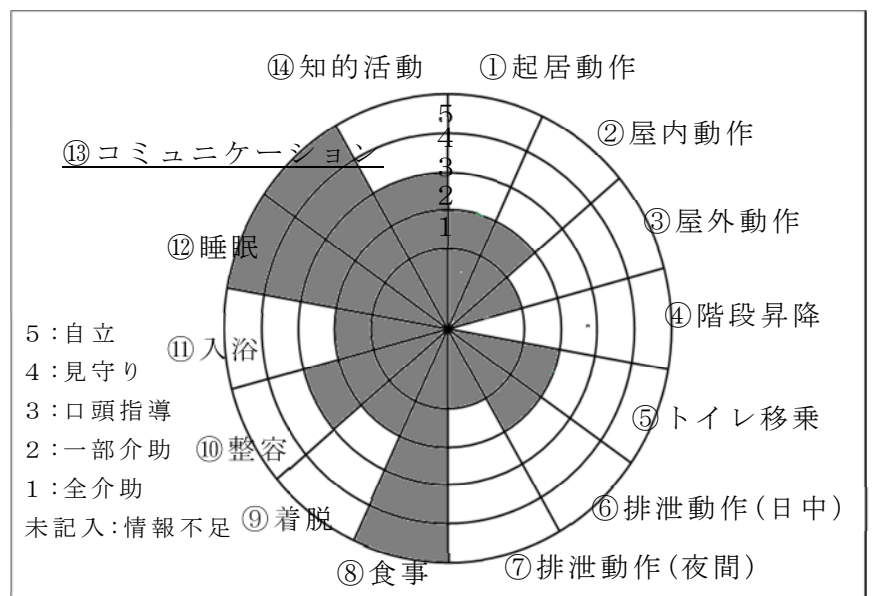


図2：活動・ADLチャート

3 介護過程の展開

(1) アセスメント

アセスメントシート（表1）を用いて、10月1日にアセスメントを実施した。

- ・「コミュニケーション」④⑤では、猫にとっても感心を持っていることが分かるが、猫を見ているAさんの表情はいつも寂しそうであった。その理由としては、「役割」の④から、自分が飼っていた猫を思い出してしまうためだと考えられる。
- ・「役割」①と「余暇活動」④からは、Aさんは自分のしていた仕事に誇りを持っていると考えられるが、過去の思い出を振り返るとどうしても、寂しい気持ちに陥ってしまう。
- ・「余暇活動」①③⑤より暇な時間は何かしたい、という思いが推測できる。

以上より、満たされていないニーズとその理由として、

- 過去の出来事を思い出し、楽しい気持ちで毎日を過ごせない。
- 暇な時間が多く、楽しい時間が過ごせない。

これらより、受け持ち利用者が持つ生活全般のニーズとして#5「過去を思い出して寂しい思いをすることなく、今現在を楽しく充実した日々をしたい。」があると導き出した。

表1：アセスメントシート（抜粋）

項目	主観的情報	客観的情報	家族・関係者・記録からの情報
コミュニケーション	①（自己紹介をすると）「あら。可愛い。よろしくね。」（と手を差し出してくれた。）（6/3） ②「今日はあまりお話できないわね。」（6/4） ⑤（猫の絵を見せると）「可愛い！！」「私は昔、猫を飼っていたのよ。」（と話した後、悲しい表情をする。）（6/6） ⑥「主人に会いたい。」（6/10）	③TVを見て大声で笑い、職員の方にも、その面白さを伝えようと声を掛けていた。（6/6） ④猫がTVに映っているのを見ながら笑っていた。（6/7）	⑦職員より（6/10） 夫や息子のことをとても大切に思っているが、思いが募りすぎて感情がコントロールできなくなり、寂しくなってしまうことがある。
役割	①「私はお花の先生をしていたのよ。多いときは100人も生徒がいて、あの時は楽しかったわ、あの時に戻りたい。」（6/10） ②「私は長男を産んでいるから、男の子の可愛さってわかるの。」（6/14）	③猫のマグカップを見て、ぼーっと寂しそうな表情を浮かべながらも、他の利用者のコップも一緒に片づける。（6/12）	④職員より（6/12） Aさんは家で猫を飼っていたそうで、猫が大好き。寝る時も猫のぬいぐるみがないと落ち着きがない。

余暇活動	①「一緒に何かしよう。」(6/7) ②「五目並べってほんとに楽しいね。」(6/10) ④(一緒にお花の塗り絵をしていると)「お花の先生っていいよ。またしたい。」(6/13) ⑤「やることない。眠い。」(6/17)	③暇な時間があると、机に伏せてしまう。(6/12) ⑦風船バレーや伝言ゲームを他の利用者さんの方と楽しんでいた。(6/19)	⑥職員より(6/14) 忙しいと、中々相手になってあげることが出来ないため寂しい思いをさせてしまっている。
------	---	---	--

(2) 介護計画立案

長期目標	短期目標	支援方法
#5-1(10/7~3/31) 暇な時間を減らし、寂しさを軽減するため、Aさんに役割を担ってもらい、貼り絵で一つの作品を作る #5-2(10/7~3/31) 楽しい気持ちで毎日過ごす	#5-1-①(10/7~10/11) 決まった時間に貼り絵を行い、完成を目指す。 #5-2-①(10/7~10/11) 利用者が寂しそうにしている状態が見られた際は話を聞き、寄り添う。	① <u>“今”という時間に充実感を持てただけのように</u> 1) Aさんが一番暇を持て余していると思われる <u>午後</u> に <u>毎日1時間程度貼り絵を行う。</u> 2) Aさんが一人で行えることはなるべく自力で行ってもらおう。 ② <u>寂しいという思いを軽減させるために</u> 1) 机に伏せていたり、下を向いていたり、不穏な状態が見られた際にはなるべく声を掛ける。

(3) 援助の実施

◆ #5-1-①-1) “今”という時間に充実感を持ていただくために貼り絵を行う。

i 方法

麻痺側でない右手を上手く使いながら、貼り絵を進めてもらう。貼り絵を進めていく中で、折り紙をうまくちぎれないとのことだったので、折り紙をちぎる役は実習生が担当し、色の配色や位置はAさんに任せた。できるだけ自然な会話を交えながら、ゆったりとした雰囲気の中で行い、Aさんのペースに合わせて進めた。

ii 注意したこと

- ・ Aさんのペースを大切にしながら貼り絵を進めていく。
- ・ 隣で観察しているだけだと、Aさんが不思議に思うため、一緒に行く。

iii 工夫したこと

- ・ 貼り絵のデザインについては、Aさんの過去にまつわるものを取り入れてみてはどうかと思い、Aさんの好きな猫と花をデザインとすることにした。
- ・ 一日一日、貼り絵を終えた後には毎回、その日の進み具合を一緒に確認し、

次回へのやる気と楽しさを引き出せるようにした。

iv Aさんの反応

貼り絵に対しての意欲は初めから高く、猫と花のデザインも「可愛い、可愛い」と嬉しそうだった。過去の話しになっても、笑顔で笑いながらお話してくれるようになった。貼り絵の進み具合もよく、時間になる前にAさんの方から、「貼り絵はまだなの？」と聞いてくることも多くあった。貼り絵をしている最中は、終始寂しい表情も言動も見られることなく、自分の役割をしっかりと把握し、作業によく集中し、楽しんでいた。

(4) 評価～効果と課題～

余暇活動の実施前は、暇な時間や過去を思い出してしまう時間があると、寂しさを感じてしまうAさんであった。しかし、毎日貼り絵を継続しながら作品の完成へ向けて、自分の役割を何か持つことで、寂しいと思う時間が少なくなった。また、今回の余暇活動の実施の中ではAさんの過去に着目し、貼り絵の中にAさんが今でも大切に思っているものを取り入れて表現したデザインにしたことで、自分の過去を思い出しつつも、寂しさを表すような態度は見られることなく、何より過去の話しを笑いながら話すようになった。「楽しい」と思うことをしながらの過去の回想は、ゆったりと毎日を過ごせることにつながっていったと考える。また、机に伏せている状態が見られた場合はAさんの元へ行き、落ち着いて話を聴くことで、Aさんも安心した表情をしていた。このことにより、『生活全般のニーズ#5：過去を思い出して寂しい思いをすることなく、今現在を楽しく充実した日々になりたい。』が満たされつつあるのではないかと考える。以上のことから、この計画は続行とする。

4 考察

過去の出来事を大切にするAさんの心はとても温かく、話を聴いていて私自身が感情移入して、寂しくなってしまうこともあったほどである。しかし、Aさんが貼り絵をしながら過去の出来事を話すと、笑顔になるということがわかった。貼り絵をしながら、過去を振り返って話しをした時、笑顔で話をしていた姿が、とても印象的であった。利用者の過去に寄り添いながら、利用者に合った支援をすることはとても大変で難しいこともあったが、貼り絵を一緒に取り組むうちに、初めに見られていた寂しい表情よりも、笑顔の数のほうが増えていく場面が見られた。今回の実習では、ひとりの利用者へ行う個別ケアの大切さを改めて学ぶことができた。

5 参考文献

石野育子：最新介護福祉全書7介護過程, メジカルフレンド社, 2013

過去の思い出を大切にする 利用者への余暇活動の効果と課題

2013. 11. 29

千葉県松戸向陽高等学校 福祉教養科
3年7組37番 若倉汐里

基本情報

受け持ち利用者:A様 70代 女性

・要介護度 Ⅲ

・障害高齢者の日常自立度 B1

・認知症高齢者の日常自立度 Ⅲa

現病

・高血圧

既往歴

脳梗塞

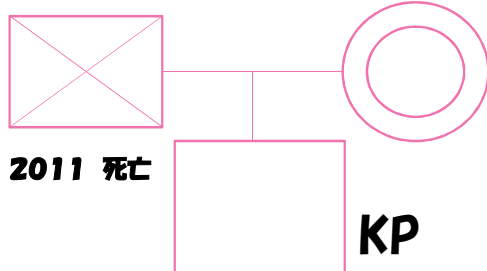
・白内障

・認知症

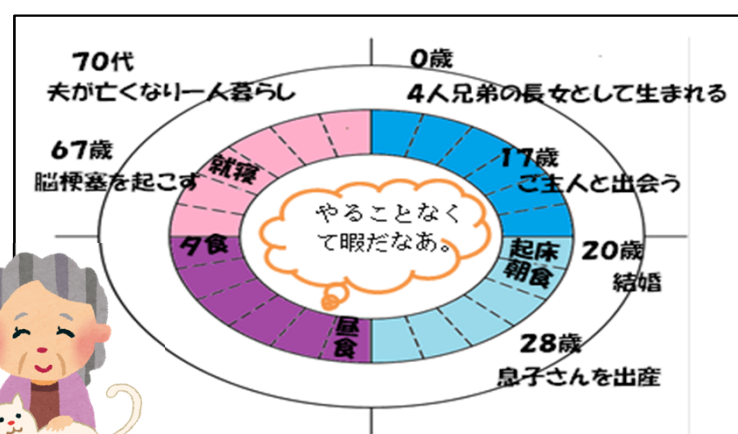
・脳梗塞後遺症(左片麻痺)

ジェノグラム

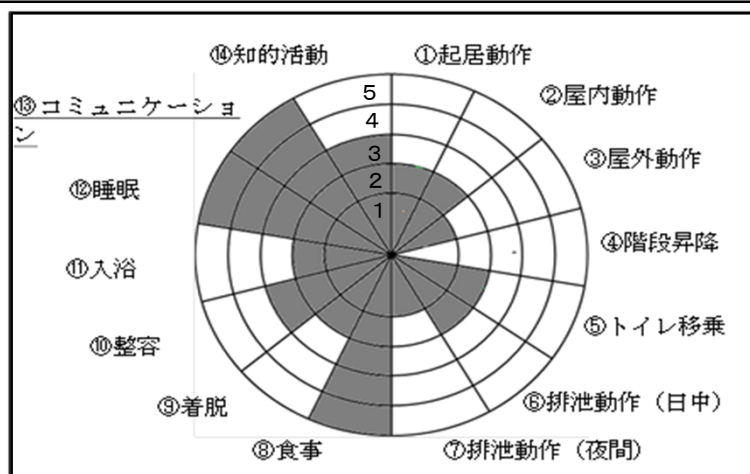
Aさんは夫と息子の話をよくされるが...



いつも寂しそうな表情をされる。



ライフサークルチャート



5:自立 4:見守り 3:口頭指導 2:一部介助 1:全介助 未記入:情報不足

活動・ADLチャート

アセスメント①

人と関わることが好きでお話し好き



コミュニケーションを
とってみて分かったこと。

- ・夫と息子のことを大切に思っている。
- ・家で飼っていた猫が忘れられない。

思い出して寂しくなる。

アセスメント②

自分のしていた仕事に誇りを持っている

- ・「先生やってたんだからね。」
- ・「あの時は楽しかった。」
- ・「昔に戻ってまた仕事したい。」

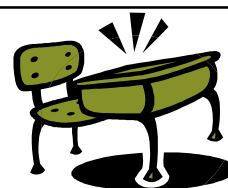
生け花の先生 ＊ ＊



悲しそうな表情が見られる。

アセスメント③

机に伏せてしまう



- ・「一緒に何かしよう。」
 - ・「やることないから眠い。」
 - ・「なにかすることない??」
- 暇な時間があると・・・

寂しそうで、
悲しそう。
訴えが
みられる。

アセスメント①②③より導き出されたニーズとは

満たされていないニーズ

- * 過去の出来事を思い出し、楽しい気持ちで毎日を過ごせない。
- * 暇な時間が多く、楽しい時間が過ごせない。

#5 過去を思い出して寂しい思いをすることなく、今現在を楽しく充実した日々をしたい。

介護計画立案

- ① “今”という時間に充実感を持ってもらう。
→ Aさんが一番暇を持て余していると思われる午後に毎日1時間程度の貼絵を行う。
- ② 寂しいという思いを軽減させる。
→ 机に伏せていたり、不穏な状態が見られた際には声掛けを忘れない。

過去よりも今を！！

支援方法～注意したこと～

- * Aさんのペースを大切にしながら貼絵を進めていく。
- * 隣で観察しているだけだと、Aさんが不思議に思うため一緒に貼絵を行う。

支援方法～工夫したこと～

- * 1日1日、貼絵を終えた後には毎回、その日の進み具合を一緒に確認し、次回へのやる気と楽しさを引き出せるようにした。
- * 貼絵のデザインについての工夫

“Aさんと話し合って決める。”

貼り絵のデザインについて

Aさんの好きなものをデザインに！！

- * 猫・・・家で飼っていた猫が大好き
- * お花・・・生け花の先生をしていたためお花には詳しい

楽しいことをしながら過去を思い出すことで、
思い出を悲しいと思うばかりではなく
自分の過去を大切にしながらゆったりと毎日を
過ごしていただけるのではないかな？

果たして貼り絵の出来と効果はどうなった??

貼り絵完成！！

“秋桜と桔梗と猫”



Aさんの反応と効果①(貼り絵)



- * 「可愛くてきてる！」
- * 「とても楽しいよ。」
- * 「あなたに会わなかったら、
こんな楽しいこと
知らなかったんだね。」

作業中は寂しそうな表情も言動
も見られることはなかった。

Aさんの反応と効果②(貼り絵)



- * 「貼り絵はまだやらないの??」
- * 「はやくやりたい。」
- 一日の中で楽しみが見つかる。
- * 「今度一緒に生け花やりたいね。」
- * 「息子に会わせてあげたい。」
- 過去の話しになっても、悲しい表情は見せず、
楽しそうにお話するようになった。

充実した毎日を送れることにつながった。

Aさんの反応と効果③(声掛け)

- * 机に伏せている状態が見られた場合・・・

どうしたのか、Aさんの話を落ち着いて話を聴く。

安心した表情をされ、
お話を続けていると笑顔を取り戻す。

不穏な行動の解消

- * 貼り絵をしている最中は
寂しそうな表情は見せない。
- * 一日の中で楽しみが見つかり、
過去の話を楽しそうに話す。
- * Aさんが机に伏せてしまうという
不穏な行動を解消。

以上3つの
効果から

#5 過去を思い出して寂しい思いを
することなく、今現在を
楽しく充実した日々をしたい。

計画は続行とする。

～考察～

利用者の過去に寄り添いながら、
その人に合った支援をすることはとても
難しいことであったが、
貼り絵と一緒に取り組むうちに
初めに見られていたさみしい表情よりも、
笑顔の数のほうが増えていく場面が見られた。

ひとりの利用者へ行う個別ケアの大切さを
改めて学ぶことができた。

謝辞

ご清聴ありがとうございました。

この場をお借りして、
ご指導頂いた実習施設の方々、
支えて下さった先生方、家族や友人たち、
そして担当させて頂いたAさんに
心から感謝申し上げます。



ありがとうございました！！